いきいき新鮮市
～ M・F・C の取り組み ～

南部町漁業協同組合
ﾐﾅﾍﾞﾌｨｯｼｬｰﾏﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ
部員　山本啓嗣

1　地域と漁業の概要

私の所属する南部町漁業協同組合は、紀伊半島西岸のほぼ中央部、紀伊水道に面した位置にあり、昭和４０年に南部町内の堺浦、南部浦、岩代の３漁協が合併して現代に至っております。組合員数は、正組合員２７７名、準組合員１４１名、漁船数２３０隻で、まき網、敷網、刺網、船曳網、一本釣り、曳縄、延縄等多種の漁業を営んでおり、季節あるいは漁況に対応して漁業種類を切り替える複合経営体の多いことが特徴となっています。

また、栽培漁業促進の一環として毎年ヒラメ・トラフグ等の中間育成やイセエビの放流事業を実施しており、２年前からは観光漁業の試みとして、南部町観光協会とタイアップした形で棒受け網漁業の操業を主とした「観光いさりび漁」に取り組んでいるところです。

尚、平成９年度の水揚げについては、漁獲量は３,５９２トン、総水揚げ金額は８億５千万円であります。

2　研究グループの組織及び運営

「この海で漁業を営んでいきたい。」「漁業を地域の方々に理解して貰いたい。」

私たち青年部は、このような思いで漁業での安定した生活、組合活動への積極的な参加、他業種との交流、後継者づくりを目的として、平成４年に３０歳までの組合員を対象に自分たちが発起人となり設立しました。

定年制はつくらず、「来るものは拒まず、去るものは追わず。」の自主的な組織とし、「Ｍ.Ｆ.Ｃ」（ミナベ フィッシャーマンズ クラブ）と命名しました。

現在、部員数は１５名で平均年齢は３０歳、漁業種類もまき網、敷網、刺網、一本釣り、まぐろ延縄と様々です。

活動としては、組合事業であるヒラメ・トラフグの中間育成への参加や、青年部主体によるヒオウギ養殖、オニオコゼの栽培漁業への取り組み、視察研修などの活動を行っています。

平成９年度における活動回数は８０回、各活動の平均参加人数は１２名で、運転資金は、事業収入（ヒオウギ養殖）、会費、町の助成金によりまかなっています。

3　実践活動課題選定の動機

漁業をとりまく環境は年々厳しさを増し、私たちの地域においても漁業資源の悪化や魚

価の低落・低迷が続き、これらは直接私たちの生活を左右するものであり、かつ大変深刻な問題となっています。

M.F.Cの会議においても、魚価の低迷については輸入水産物の定着や生活習慣などからくる魚離れなどの様々な要因が考えられ、私たち漁業者自身が自分の獲ってきた漁獲物の価格の向上に向けて、もっと努力していかなければならないと議論されていました。

そんな折、昨年は南部町制１００周年ということで、町から漁協としてなにか記念行事へ参加をしないかとの話があり、検討した結果、７月２０日の「海の日」に当漁協荷捌所で獲れたての新鮮な魚のおいしさを消費者に再認識してもらい、魚の消費拡大につなげようと、M.F.Cでは「いきいき新鮮市」と銘打ち鮮魚販売をおこないました。

また他の催しとして、漁協婦人部では手作りの水産加工品・お寿司、母親クラブではイワシのつかみ取り・小アジの釣り堀・魚料理の実演ならびに公民館ではホエールウォッチング等を開催しました。

結果、大変好評であったため、今後も「海の日」の恒例行事として定着させていこうと、今年も引き続き開催しました。

４ 実践活動の状況及び成果

「いきいき新鮮市」では、地元で揚がる魚を食べてもらいたいということで、当漁協で水揚げされる平アジ、マルアジ、サバ、タチウオのほか、養殖しているヒオウギなどの魚介類をそろえ、販売時間を朝９時頃から正午までと時間を限定し「売り切れゴメン！」という形でＰＲ、販売することにしました。販売価格については魚食普及が目的であるため、浜値に近い価格にした結果、一般の人にはこれは破格の値段だったようで、あっという間に完売してしまいました。

他の催しとして、「イワシ・小アジのつかみ取り（母親クラブ運営）」では、M.F.C部員が農業用のコンテナを四角に並べた上にシートを被せて流水式の大きな簡易プールを作成し、数日前から蓄養しておいたイワシ、小アジをその中に放し、準備にあたりました。

このつかみ取りは、小学生までを対象にし、直接プールの中に入って、時間内に魚を素手で取ってもらい、取った魚は持ち帰って自分で食べてもらうというシステムです。

子供達にとって水の中で魚にふれることは大変楽しいらしく、裸で大ハッスルする子供もあり、この催しは絶大な人気を誇っていました。

また、「ホエールウォッチング」では、M.F.C部員が子ども達を漁船に乗せて出航、あいにくこの日はクジラの姿を見ることはできませんでしたが、初めて乗る漁船の上で海の広さを満喫され、良い経験になったようです。

尚、集客面では、新聞に手作りのチラシを入れたり、漁港入り口の幹線道路に看板を立てることにより、県外の人も含めて約３,０００人もの方々にきていただくことができ、大盛況のうちに終わることができました。

それから今年はM.F.Cが主体となり、他業種の独身の女性の方々を対象とし交流会を開催しました。「夕暮れの海をクルージングしてみませんか」をキャッチフレーズに、地方紙に載せてもらったり、各団体にＦＡＸを入れたり、若い方のいる家を廻ったりして参加を呼びかけ、当日は男性１０名女性１５名が集い、第１部として女性の方々に漁船を知

って貰うことを目的として夕暮れの海を午後６時から午後７時頃までクルージングしてもらい、第２部として午後９時頃を目処に魚介類を主としたバーベキューパーティー、ゲーム、花火などを行い充実した夏の夜の一時をすごしました。

初めての試みではあったものの、M.F.C部員が前日から仕事そっちのけで準備をし、何か一つのことを一緒にすると言う意味での連帯感が一層強固になったと感じています。又、当日は当漁協婦人部役員さんにもおそくまで手伝ってもらいました。今後も年一回を目標に続けていきたいと思っています。

5 波及効果

近年は休みになると、漁港へ他地域から大勢の方が来られるようになり、それはよいのですが、ゴミなどをそのまま放置して帰る場合が多く、港内が汚れたり、漁業活動面でも少なからず支障をきたしていることは事実で、各地でも問題となっているようですが、こうした催しを行うことにより漁港を訪れ、私たちと接する機会を持つことで漁業を理解してもらい、また「海」「漁港」は私たちの大切な仕事場であると同時に、消費者の方々にとっても新鮮な魚を供給してくれる身近な存在だと感じてもらえれば、状況も変わっていくのではないかと思います。

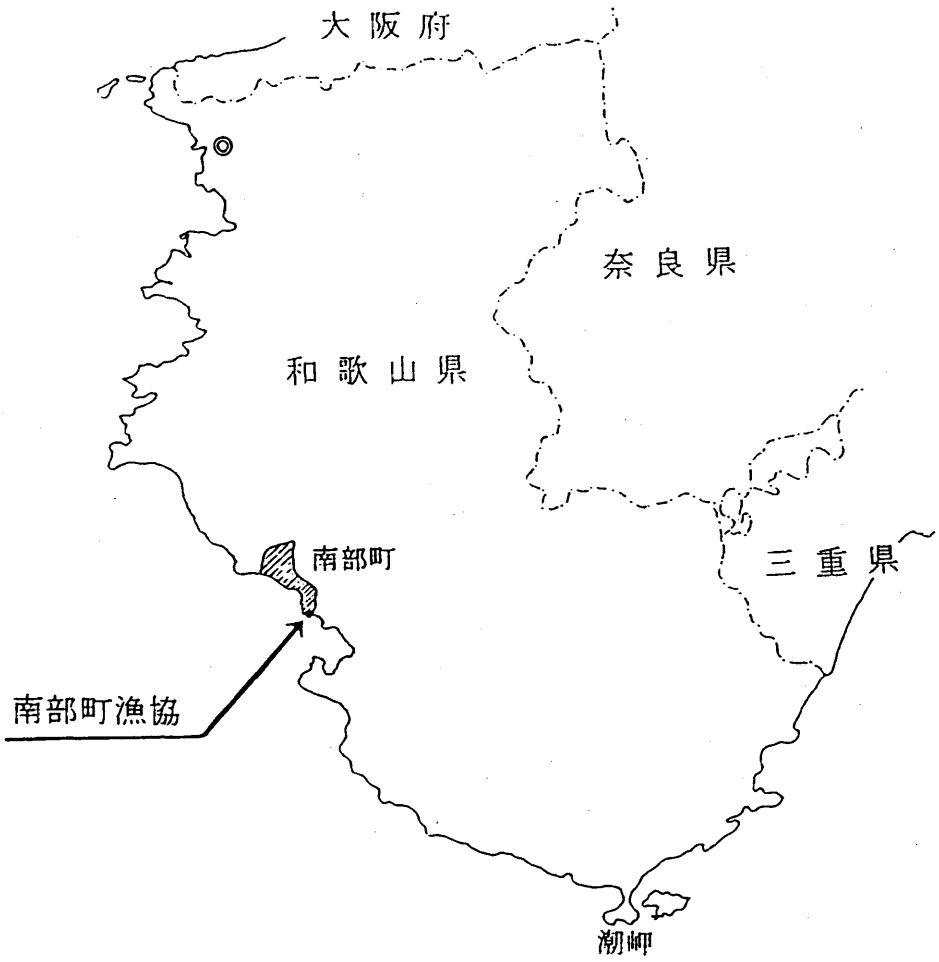
朝市に訪れる人には子供連れの若い家族も多く、こうして魚に接することにより魚離れの防止につながるのではないかと期待しています。

地域においても活動の目標ができ、漁港へお客さんが来るということで、港の美化にもつながってきました。

6 今後の計画

魚価の正当性を確保していくためには、漁業者自らが流通等研究・開拓していかなければならないが、私たち M.F.Cとしては、まずできるところから一般消費者の方々に魚食普及への関心を深めてもらうため、今後より一層地域に密着した朝市を開催するとともに、誰もが漁業に接する機会を提供していきたいと考えています。

また、他地域、他業種間の交流を深めていくことが漁業に対する理解を深めていただくことにもつながると思いますので、今後も積極的な活動をおこないつつ、ひいては漁業者が客観的に自分たちの「漁業」を見ていけるよう考えてゆきたいと思います。

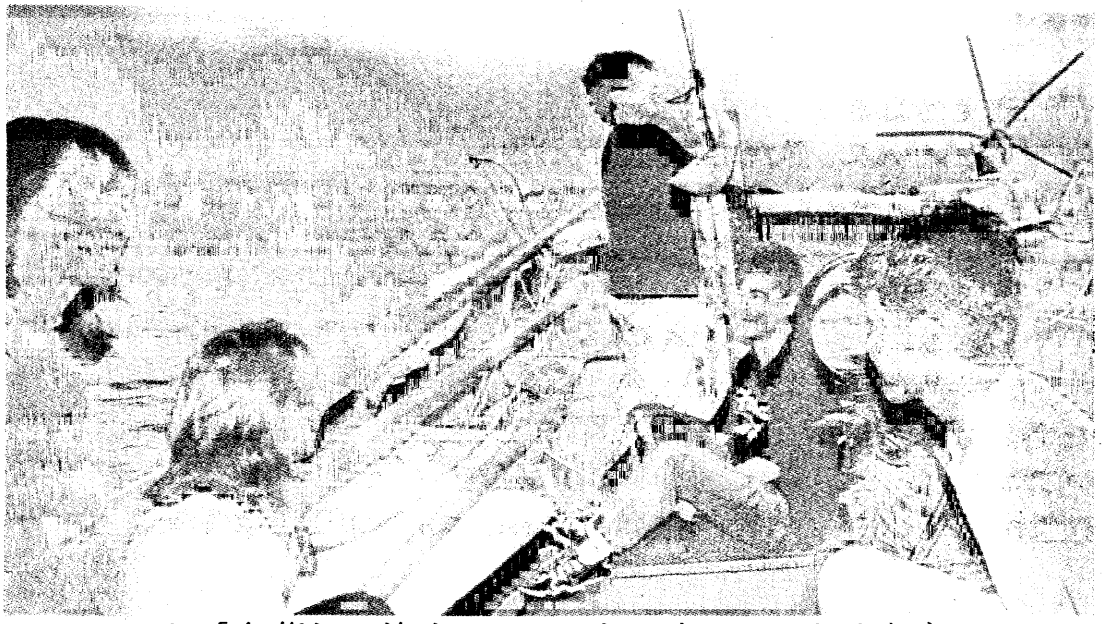


○位置図

○「いきいき新鮮市」鮮魚販売風景

○ 子供たちに大人気、「イワシ・小アジのつかみ取り」

○ 漁船に乗っての、「ホエールウォッチング」



○「夕暮れの海をクルージングしてみませんか」